



印刷時に有害な廃液が出ない
「水なし印刷」で印刷しています。



イズミグループ 社会・環境報告書 2022 ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT

夢のある暮らしをみなさまと



会 社 概 要

会 社 名	株式会社イズミ
本 社 所 在 地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資 本 金	196億1,385万円
設 立	1961年10月27日
従 業 員 数	正社員 4,399人 パートタイマー 10,945人(1日8時間換算) ※2022年2月28日現在
店 舗 数	195店舗(エクセル単独店舗7店舗含む) ※2022年4月30日現在
店 舗 地 域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、 大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事 業 内 容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャндаイジング・ ストア(GMS)、スーパーマーケット等の業態による衣料品、 住居関連品、食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他



作成部署およびお問い合わせ先

株式会社イズミ 顧客サービス部
〒732-8555 広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL 082-264-3211(代) URL <https://www.izumi.co.jp/>



一人ひとりの夢に寄り添い 希望あふれる「持続可能な未来」をめざします。

イズミは1961年の創業以来「みなさまの夢に寄り添い、共存共栄すること」を信条に
一歩一歩、誠実に粘り強く前進してきました。
これからも希望あふれる「持続可能な未来」をめざして
SDGsを指針に、イズミグループ一丸となって歩み続けます。



contents

youme MIRAI Action	3
新たな価値の創造へ イズミのDX	5

トップメッセージ

株式会社イズミ 代表取締役社長 山西 泰明	7
--------------------------------	---

イズミの4つの夢

お客さまにわくわくする場所を	9
地域に活気生まれる拠点を	13
テナント様と共にさらなる発展を	17
社員の可能性が開花する環境を	19

IZUMI ECO ACTION 2022

全方面でCO ₂ 排出量削減	23
資源循環の輪を地域に拡大	25

持続的成長と信頼の醸成へ

経営の根幹をなす指針を明示	27
IRコミュニケーションを推進	29
コーポレートガバナンスの充実	30

社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針

イズミでは、CSR（企業の社会的責任）に関わる取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。

報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーのみなさまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。

【最新情報について】イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。

URL <https://www.izumi.co.jp/>

●報告書の発行

今回の発行

2022年7月（2021年3月1日～2022年2月28日の取り組み内容）
※一部、2021年3月以前、2022年3月以降の取り組みについても報告を行っています。

次回の発行予定

2023年7月（2022年3月1日～2023年2月28日の取り組み内容）

●報告書の対象

株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。

●対象読者

お客さま、店舗の近隣住民のみなさま、行政、お取引先様、株主のみなさま、学生、NPO、NGO、投資家のみなさま、従業員など

サステナブルな
未来をめざして

youme MIRAI Action

世界共通の目標であるSDGsの達成と、
持続可能な社会の実現に向けて
イズミグループは多様な取り組みを行っています。
2020年に発表した「youme MIRAI宣言」をもとに、
2021年から「youme MIRAI Action」に
沿って活動を本格化。
ステークホルダーのみなさまと連携し、
積極的に行動しています。



従業員に配布したSDGsハンドブック

CO₂削減

2030年目標 **50%**削減

2050年目標 **排出実質ゼロ**

※目標は2013年度比

太陽光発電の実施店舗が増加

イズミでは長年、「省エネ」に力を入れてきました。そこから一歩進めた「創エネ（電気をつくる）」は2015年にスタート。2021年からは再生可能エネルギーの活用拡大に向けて、店舗へのPPA（Power Purchase Agreement（電力販売契約））モデルの導入を19店舗で開始。大型店から小型店まで、屋根や屋上に太陽光発電パネルを設置しました。今後も検証を進め、可能な店舗から設置を進めていきます。



屋根に太陽光発電パネルが設置された「ゆめマート日田」

太陽光パネル
設置店舗数 **21** 店舗 (2022年6月現在)

太陽光発電による
CO₂排出量削減 **3,280** t-CO₂

関連する目標



食品ロス・リサイクル

2030年目標 **食品ロス50%削減／食品リサイクル率70%** ※目標は2018年度比

「もぐもぐチャレンジ」導入店舗拡大

2021年4月17日より、ゆめマート八幡・西米・八木で導入した「もぐもぐチャレンジ」。賞味・消費期限が近い商品に貼られたシールを10枚集めると、景品が当たる仕組みです。また、店頭のパネルにシールを貼ると、1枚につき1円を店舗からこども食堂へ寄付。食品ロス削減と社会貢献が同時にできる取り組みです。導入店舗は2022年3月現在、40店舗に拡大しています。



「もぐもぐチャレンジ」コーナー

「もぐにいシール」
回収枚数
448,110 枚
(2021年4月～2022年2月)

フードドライブを各地でスタート

2021年4月15日から、37店舗で「フードドライブ」を開始。家庭で余った未開封の食品を寄付してもらい、必要とする人に届けて、食品ロス削減を進めています。2022年2月現在、導入店舗は38店舗に増加。

寄付された食品の点数
14,157 点 **5,634** kg
(2021年4月～2022年2月)



「ゆめマート青山」の
フードドライブコーナー

手前から取る「てまえどり」開始

「てまえどり」とは、購入してすぐに食べる場合、商品棚の手前、にある販売期限の迫った商品を選ぶ購買行動です。2021年7月12日から食品売場にPOPを設置し、お客さまにご協力をお願いしています。



卵売場のPOP

従業員による食料資源の有効活用

従業員は食品廃棄量を毎日、表に記入して見える化を実施。発注精度の向上などで食品ロスの削減に努めています。また、バックルームから出る野菜くずや廃油などを徹底的に分類し、専門業者に委託してリサイクル。今後もさらに工夫を凝らし、食料資源の有効活用を進めていきます。
【詳細はp26で紹介】



食品廃棄量の一覧表

食品ロス
削減実績 **57%**
(2018年度比の2021年度実績)

食品
リサイクル率 **41.6%**
(2021年3月～2022年2月)

関連する目標



プラスチック削減

プラスチック製レジ袋

2030年目標 **80%**削減

2050年目標 **100%**削減

※目標は2018年度比

トレーの回収と再生を推進

イズミは1991年に、広島市では初の取り組みとして、株式会社エフピコと連携して店頭でのトレー回収を始めました。現在では全店で回収ボックスを設置し、エフピコが手がける再生トレー「エコトレー」を積極的に売場で利用。お客さまにも周知を図っています。

バイオマスレジ袋を導入

2021年11月より、全店で植物由来のポリエチレン「バイオマスプラスチック」を25%配合したレジ袋の使用をスタート。石油資源の節約とCO₂排出量の削減につなげています。



バイオマスプラスチックの
マーク



エフピコの佐藤守正社長(右)から、
トレー回収30周年を記念した盾を
いただきました

食品トレー回収量
236 万枚
(2021年度実績)

関連する目標



新たな価値の創造へ

イズミのDX

お客さま × DX 多様な購買体験を提供する

2021年4月
配信

ゆめアプリ

お客さまとイズミの関係強化に向けて、「ゆめアプリ」をリリースしました。非接触ニーズに応える、カードレス決済機能が特に好評です。お気に入り店舗を最大5店舗まで登録でき、折り込みチラシをアプリ上でチェック可能。また購入履歴などを基に、お客さまのニーズに合わせたセール情報やデジタルクーポンなどを提供しています。今後もさらにパーソナライズされたサービスを提供できるよう、アプリをアップデートしていく予定です。



「ゆめアプリ」
トップページ



ゲーム感覚でポイントが
もらえる「ゆめガチャ」

2020年4月
刷新

ゆめオンライン

通販サイト「ゆめオンライン」は、「店舗連動型セレクト通販」として2020年に刷新されました。豊富な店舗在庫を生かし、衣・食・住の幅広い商品を取り扱っています。ギフトやおせちは店舗予約と連動し、充実した品ぞろえを実現。またオンライン限定で、産地直送品や通年ギフトも企画しています。2020年12月から、ライブ動画を使用したeコマース「youme LIVE」も導入。自宅にしながら、バイヤーによる詳細な商品紹介が視聴できます。



「youme LIVE」で商品の開発秘話を紹介

「ゆめオンライン」
トップページ

イズミがめざすDXは「デジタル技術による新たな企業価値の創造」です。3つの重点分野「お客さま」「地域」「社員」を中心に事業改革に取り組み、ステークホルダーのみなさまへの貢献を進めます。



2021年6月
稼働

ゆめデリバリー

地域密着型の配送サービス「ゆめデリバリー」を2021年6月に開始。生鮮食品を含む日用品を、多数取り扱っています。ネットで注文を受け、最短で当日ご自宅へお届け。スピード対応が好評です。「ピックアップ」サービスも導入。「仕事帰りに駐車場で商品を受け取る」「レジャー帰りに、店外ロッカーで商品を受け取る」といった使い方ができます。

子育て応援パス

お子さまが満4歳になるまで、配達料金がいつでも100円(税抜)になるお得なサービスです。子育て支援の一環として2021年9月に導入しました。



駐車場で、車から降りずに商品が受け取れる



「ゆめデリバリー」専用の店外ロッカー

お客さま

ネットで注文

店舗

商品を準備

ご自宅にお届け
「デリバリー」

店舗で受け取る
「ピックアップ」

3種類のピックアップ

- ・ドライブピックアップ
(駐車場で受け取り)
- ・ロッカーピックアップ
(店外ロッカーで受け取り)
- ・カウンターピックアップ
(サービスカウンターで受け取り)

地域

DX 未来への仕組みづくり

2021年2月
開始

東広島市での実証実験

東広島市、広島大学、モネ・テクノロジーズ株式会社と合同で小売りMaaSを自動運転車で実現する「Autono-MaaS(オートノマース)」*の実用化に向けたプロジェクトに取り組んでいます。指定場所から「ゆめタウン学園店」への送迎サービスや、電話で注文した商品を指定場所・時間に配送するサービスなどの実証実験を実施中です。今後も地域のお客さまの買物をサポートする新たなサービスの提供に取り組んでいきます。

* Autonomous Vehicle(自動運転車)と MaaS を融合させた、自動運転車を利用したモビリティサービスを示すトヨタ自動車株式会社による造語



広島大学構内を走行する自動運転車

社員

DX 働きやすい職場づくり

2019年
導入開始

自動発注システム

発注業務の省力化に向け、需要予測型自動発注システムを導入。AIの活用で需要予測の精度を高め、在庫管理の適正化や食品ロスの削減につなげています。またスマホでランドセルが*試着、できる「バーチャルランドセル」も導入しました。DXにより生まれた余剰時間は、社員教育に充当。長時間労働の抑制と有給休暇の取得促進により、ワークライフバランスの向上にもつながります。



タブレット型の自動発注装置



「バーチャルランドセル」(イメージ)



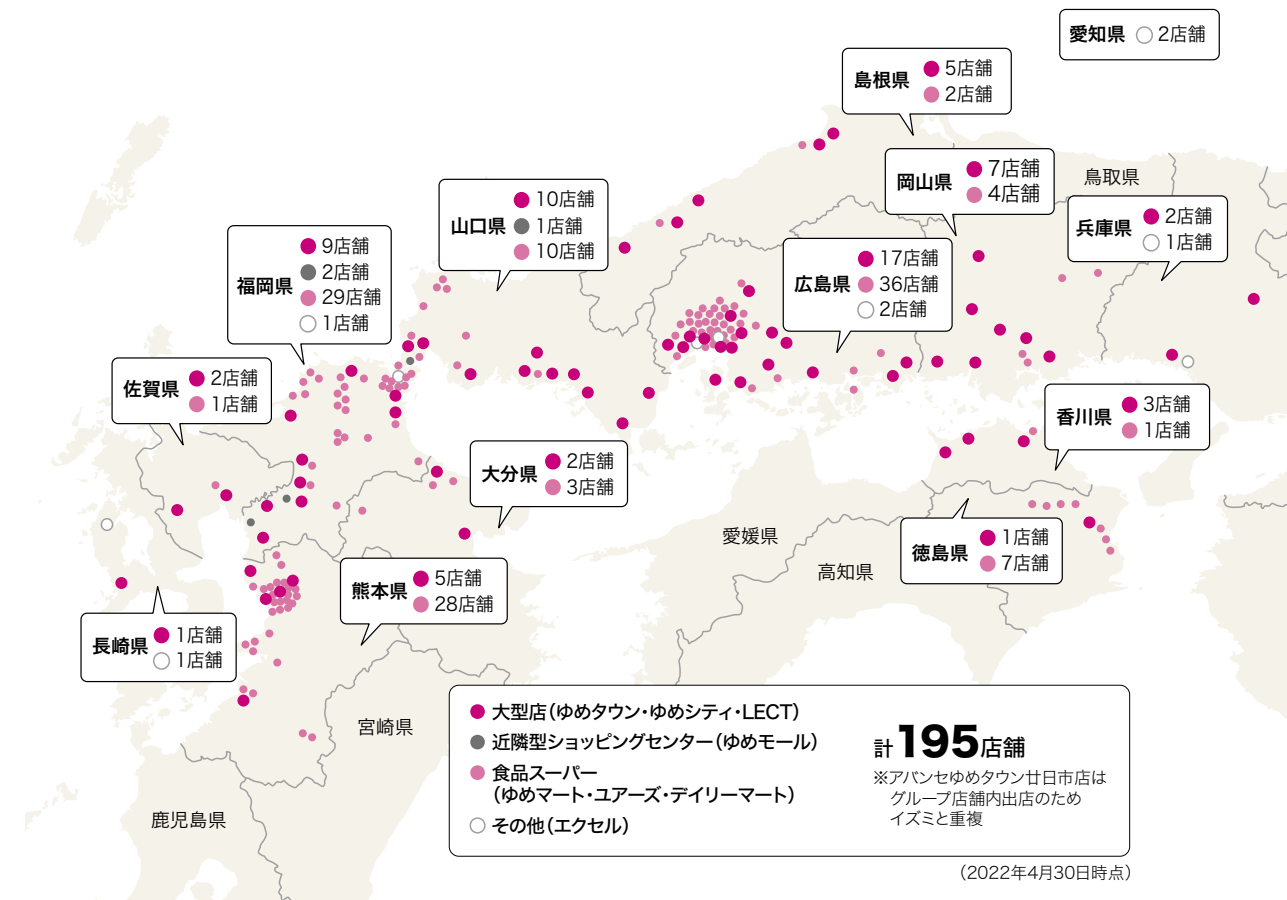
株式会社イズミ 代表取締役社長 山西 泰明

2021年は前年に引き続き、コロナ禍の影響を大きく受けた1年となりました。イズミでは、お客さまおよび従業員の安全確保を最優先し、ライフラインの維持に注力。生鮮食品・日用品の宅配サービス「ゆめデリバリー」を開始するなど、新しい生活様式への対応を進めました。今後も社員一人ひとりの徹底した新型コロナウイルス感染防止対策や、「買い物かご除菌装置」の導入などで、安心してご利用いただける店づくり に最善を尽くしてまいります。

従業員は自身の安全を確保しながら、お客さまに安全・安心を提供するため、全力を尽くしました。緊張が

続く日々の中で、大きな励みになったのが、お客さまからの手紙です。「みなさんの頑張りをいつも見えています」「笑顔の接客に救われました」といった温かい言葉が、心の支えになりました。コロナ禍を経験し、私たちは改めて、地域のみなさまに深い感謝を感じています。2022年度は、地域貢献オンリーワン企業を目指す、を方針として共有。「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という経営理念を2021年4月に発表し実践しています。子育て支援や健康寿命の延伸については、行政と連携。「ゆめタウン」を交流拠点として機能させ、コミュニティづくりをサポートします。また、

みなさまの「夢」と共に歩む
持続可能な企業をめざす



被災地の復興や格差問題の解消に向けた寄付を行い、困っている方々に寄り添った支援をしています。

SDGsについても、積極的な取り組みを推進中です。イズミが長年大切にしてきた「4つの夢」は、SDGsの理念とリンクしています。「お客さまに、より便利で快適な暮らしをお届けしたい」「地域に雇用を創出し、活気を生み出したい」「テナント様やお取引先様に、さらなる発展をしていただきたい」「社員に人間的成長とやりがい」という思いを実践することこそ、イズミらしいSDGs活動だと考えます。また、ESG（環境・社会・企業統治）の観点を重視し、地球温暖化対策や資源循環を

強化。収益性や財務体質の向上にも留意し、株主のみならずへの還元も引き続き充実させていきます。

私たちは昨年の創業60周年で、還暦を迎えました。2022年は0歳からのスタートです。初心に返り、地道に「地域とお客さまの生活への貢献」に取り組んでいきます。めざすは、`経済的価値`と`社会的価値`を両立させた持続可能な企業。これからもステークホルダーのみなさまの「夢」と共に歩み、新たな価値のフロンティアを切り開いていくイズミに、どうぞご期待ください。今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



お客さまに わくわくする場所を



2021年はイズミ創業

60周年

時代に先駆けた店づくりで お客さま満足度向上に努めて60年

私たちの原点は、1961年にオープンした「いづみ八丁堀店」です。消費者の利便性を第一に考え、中四国初のスーパーを開業しました。1973年には、マイカー時代を先読みして中国地方初の郊外型大型店「いづみ祇園店」を出店。1990年以降は、公共性を備えた大型ショッピングセンター「ゆめタウン」で、地域のニーズへの対応を進めています。2021年に創業60周年を迎えたイズミは、これまで積み重ねたノウハウを生かしながら新たな店づくりに挑戦し、今後もお客さま満足度の向上に努めていきます。



60周年記念商品「ユーくん・メーちゃん ふわちこパジャマ」。
感謝を込めて開発しました

お客さま

地域

テナント

社員

品質管理体制の構築

食品の品質管理を徹底するため、従業員は毎日午前11時と午後3時に鮮度や産地、日付チェックなどを欠かさず行っています。全店に食品品質チェッカーを配属し、表示などの勉強会を定期的開催して意識を高め、鮮度管理に当たっています。また、安全・安心な商品をお客さまにお届けするために、自社に検査室を開設。科学的に検証し、品質の管理維持に努めています。



衛生的な食材の扱いを研修



本社の品質管理検査室

「ゆめタウン祇園」 建て替え工事開始

48年間ご愛顧いただいた「ゆめタウン祇園」。2021年11月23日に旧店舗での営業を終え、建て替え工事が始まりました。新店舗はバリアフリーを推進し、地域コミュニティを支える快適な空間をめざします。2023年のオープンまでは、仮設店舗で営業を継続します。



旧店舗（写真奥）と仮設店舗（中央）

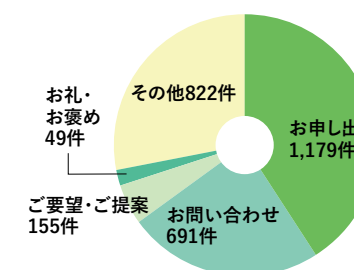


230坪の仮設店舗は生鮮食品が充実

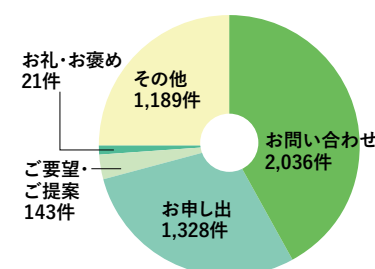
「お客さまの声」を店舗運営に反映

消費者のライフスタイルが多様化する中で、お客さまの声はイズミにとって非常に大切な財産です。本社「お客さま相談室」へのフリーダイヤルや、店頭「お客さまの声」用紙、ホームページ経由でいただいた声は、一つずつ検討し店舗運営に反映しています。

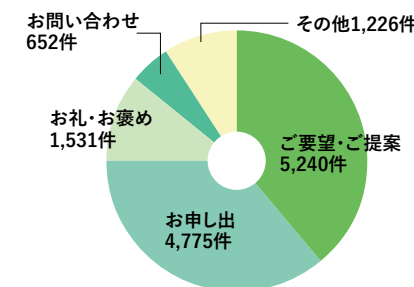
2021年度ホームページ年間実績
合計 2,896件



2021年度フリーダイヤル年間実績
合計 4,717件



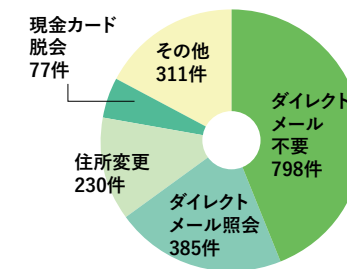
2021年度店舗での「お客さまの声」年間実績
合計 13,424件



個人情報保護の重要性を 全従業員で共有

店舗では、会員カードのご記入やギフトの発送、商品予約などの際、ご住所やお名前、電話番号などをお預かりしています。全社員が個人情報保護の重要性を理解し、プライバシーポリシーに沿って対応。慎重に適切な取り扱いに努め、個人情報の流出を防止しています。

2021年度個人情報専用ダイヤル
年間実績
合計 1,801件





お客さまにわくわくする場所を

「あらおシティモール」に市立図書館が開館

2022年4月1日、「ゆめタウンあらお」が核テナントとして入居する「あらおシティモール」に、荒尾市立図書館がオープンしました。10万5,000冊の蔵書に加え、電子書籍7,000点を備えた最先端の施設です。指定管理者の株式会社紀伊屋書店は、図書館の隣に書店も開業し、地域の皆さんに本の魅力を幅広く発信しています。

荒尾市と紀伊屋書店、運営会社の荒尾シティプラン（イズミも経営に参画）の3者は、2020年に締結した連携協定に基づき、協力して開設準備を進めてきました。図書館の開館を機に、「ゆめタウンあらお」はさらに関係各位との連携を深め、地域貢献を強化しています。

新しい図書館は市民のみなさまに好評で、来館者数は旧図書館の約15倍。買物ついでに利用する人も増えています。



地元の干潟をイメージした館内



テープカットの様子



図書館横のカフェが好評

硬貨を紙幣に替える コインスター・マシン

2021年12月16日、LECTに中国地方初のコインスター・マシンが設置されました。コインスター・マシンとは、家庭に眠る硬貨を、店舗で利用できる引換券に交換できる両替機。引換券はサービスカウンターで紙幣に両替できます。



店頭で設置されたコインスター・マシン

「全力！ 応援価格 最大2000品目」実施

2021年10月1日より、イズミグループ全店で「全力！ 応援価格 最大2000品目」が始まりました。毎日の生活に必要な食料品1,000品目と日用雑貨1,000品目の最大2,000品目を、従来価格から最大3割程度値下げ。節約志向が強まる中、お客さまの家計を応援するのが目的です。



キッチン雑貨など多様な商品が対象

初の自社製造ブランド「zehi」誕生

市場のニーズや消費者の多様な価値観に対応していくため、2022年4月、初の自社製造ブランド「zehi」を立ち上げました。惣菜やパン、生鮮加工品など「ぜひ」と胸を張っておすすめる商品ばかりです。売上の一部は、こども食堂支援のために寄付していきます。

このまちの味になる。
youmeのDELI zehi
カラフルなロゴが目印の「zehi」

コンセプト

- 自社製造だからこそできる、おいしさの追求
- 地域の食材を使った魅力的な商品の提供
- お客さまに安心して商品を提供できる安全な製造環境
- サステナブルで健康な食生活の提案

お客さま

地域

テナント

社員

店内に子育て支援の拠点誕生

2021年12月10日、「ゆめタウン東広島」に「コミュニティカフェfunfan 陽だまり」がオープンしました。NPO法人陽だまりが運営に当たり、親子の交流の場としてにぎわっています。「買物ついでに利用できて便利」と人気です。カフェタイムには子育て中の人以外も利用でき、幅広い市民の交流拠点として活用されています。



木の温もりが感じられる空間



親子が立ち寄りやすい人気スポット

「ゆめタウン山口」にSDGsコーナー誕生

山口市が取り組む「COOL CHOICE Yamaguchi」に賛同し、「ゆめタウン山口」ではSDGs関連商品の売場を開設しています。「COOL CHOICE」とは、賢い選択という意味。フェアトレード商品やリサイクル商品、地元で作られた商品など、人や社会、地球、環境にやさしい商品やサービスを紹介し、利用を呼びかけています。



地元産の食材やリサイクル素材の衣類を展示

お子さま連れで 利用しやすい店へ

「子連れで買物を楽しみたい」というお客さまの声にこたえて、おむつ替えや授乳に便利なスペース「赤ちゃんの部屋」や、キッズトイレなどの整備を進めています。2021年にリニューアルした「ゆめタウン東広島」のフードコートには、親子で食事しやすいソファ席を準備。隣接するアミューズメントコーナーにはキッズエリアもあり、ゆっくり滞在できます。



「ゆめタウン東広島」のフードコート



赤ちゃんに向かい合って座り、離乳食を食べさせやすい席

ウィズコロナ 時代に対応

安心の確保へ、接触感染を防ぐための対策を常時実施

● レジに透明アクリル板を設置／トレーを使用
お客さまと従業員の間に、飛沫・飛散感染を防ぐアクリル板を設置。金銭の授受にはトレーを使用しています。



アクリル板を設置した食品レジ

● 買い物かご除菌装置の導入を推進

イズミと広島大学、株式会社ヒロテックの共同開発で、買い物かご除菌装置を製作しました。この装置を使うと、約30秒で50個のかごが一気に除菌できます。2021年4月より導入を開始し、設置店舗を随時増やしています。



店頭で設置された除菌装置

お客さま

地域

夢

テナント

社員

地域に活気が 生まれる拠点を



競技と仕事の両立に
挑む選手の人数

20人

ハンドボールと仕事を両立して奮闘 実業団チーム「イズミメイプルレッズ」

女子ハンドボールの実業団チーム「イズミメイプルレッズ」に所属する選手たちは全員、イズミグループの企業に勤務しています。仕事と競技を両立し、全力で奮闘。2021年の東京オリンピックでは3人が日本代表に選出され、世界の舞台で戦いました。2022年1月の日本選手権大会では準優勝、日本ハンドボールリーグではプレーオフに進出するなど、成果を出しています。また、地域のスポーツ振興にも協力し、小・中学生対象の「イズミメイプルレッズジュニア」の運営や、小学校でのハンドボール教室も行っています。



プレーオフで渾身のジャンプシュート

60周年記念スポンサードゲーム開催

イズミ創業の地・広島をスポーツで盛り上げるため、オフィシャルスポンサーとして広島東洋カープを支援。スコアボードには「youme」のロゴを掲げ、チームや市民のみなさんの「夢」を応援しています。2021年は「イズミ創業60周年ゆめタウンスポンサードゲーム」を5月5日に開催。また11月23日の「カープファン感謝デー2021」にも協賛しました。



スコアボードに「youme」のロゴを掲げました



ファン感謝デーの様子

サンフレッチェ広島のゲームを盛り上げ

2021年9月11日、エディオンスタジアム広島でサンフレッチェ広島の「ゆめタウンスポンサードゲーム」を開催しました。お客さまの中から抽選で選ばれた2人がキックインセレモニーに参加。ハーフタイムには、イズミ商品券3,000円分を10名さまにプレゼントする企画も実施。イレブンの熱戦をサポートしました。



「ゆめタウン」の文字が入場ゲートを飾りました

「ドラゴンフライズゆめか」を発行

イズミはプロバスケットボールチーム「広島ドラゴンフライズ」とダイヤモンドパートナー契約を結んでいます。2021年4月24日には、電子マネー「ドラゴンフライズゆめか」が誕生。同日に行われた滋賀レイクスターズ戦の試合会場で、特設ブースを設けてファンのみなさんに新しいゆめかを発行しました。



チームロゴをあしらった「ドラゴンフライズゆめか」

泉美術館で開催 児童画コンクール

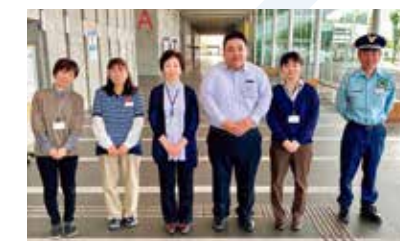
泉美術館は、洋画、日本画、彫刻などを気軽に鑑賞できる場として愛されています。2021年にイズミは、創業60周年を記念して母の日・父の日児童画コンクールを開催。その優秀作品を5～6月に展示しました。会場には、お子さまが自由な発想で描いた、お母さんやお父さんの絵がずらり。多くの家族連れが鑑賞に訪れました。



力作が並びました

イズミテクノが 施設管理で地域貢献

イズミグループのイズミテクノは、各地の施設で指定管理を行っています。2021年4月からは、「広島県立ふくやま産業交流館」と「米子市東山運動公園」の指定管理を開始。「地域とお客さまの生活に貢献し続ける」を目標に、地域活性化に努力しています。



「広島県立ふくやま産業交流館」のスタッフ



「米子市東山運動公園」のスタッフ



地域に活気が生まれる拠点を

「ゆめタウン吉田」災害時に避難場所を提供

2021年8月13日、記録的な大雨により広島県安芸高田市吉田町は広域で浸水被害を受けました。「ゆめタウン吉田」は、地域のお客さまの避難場所として駐車場とトイレを24時間開放。惣菜や飲料などの無償提供も行いました。店舗は1階が浸水しましたが復旧を急ぎ、翌日正午に食品売場を再開。地域のみなさまのライフライン維持に努めました。

同月には西日本各地で「令和3年8月豪雨災害」が発生したことから、8月26日～9月12日に店頭支援募金を実施。寄せられた1,034,654円は、日本赤十字に寄託しました。



吉田町の河川が氾濫



食品やドラッグの売場が浸水



屋上駐車場を近隣のみなさまに開放しました

買物のついでに 期日前投票を

「ゆめタウン廿日市」では、2021年10月31日の衆議院議員総選挙に先立って期日前投票所を開設しました。「買物ついでに投票ができて便利」と喜ばれました。



「ゆめタウン廿日市」の期日前投票所の案内

三原市久井町産原料の ポテトチップスを販売

2021年8月、「生産地限定ポテトチップス」をカルビー株式会社の協力によりイズミ限定で発売。産地は三原市久井町に限定し、売上金の一部を寄付しました。



売場で大々的にアピール

東広島市でお買物支援の実証実験

2020年に、東広島市と広島大学、モネ・テクノロジーズ株式会社、イズミが合同でITを活用したモビリティサービスの実証実験を開始。2021年2月から「ゆめタウン学園店」に電話注文した商品をバスに載せ、貨客混載で届ける実験を行っています。



広島大学構内を走る自動運転バス

「ゆめタウン浜田」に就職サポートセンター

2021年11月1日、「ゆめタウン浜田」に就職サポートセンター島根 浜田事務所がオープンしました。中高年の方や女性の就職・キャリアアップを支援する施設で、島根県労働者福祉協議会が運営。利便性向上のためキッズスペースも設けられています。



壁にイラストが描かれ、親しみやすい雰囲気



島根県の丸山達也知事(右から3番目)も視察に来店

お客さま

地域

テナント

社員

出店地域の行政と協定を締結

少子高齢化対策や産業振興など、地域課題の解決に協力するため、イズミは各地の行政との連携を進めています。2022年1月には「ゆめタウン山口」が大内連合自治会と協定を結び、地域に密着した災害時対応として避難場所の提供を約束しました。



「ゆめタウン山口」支配人の松重健(右)が調印式に参加

行政との協定一覧

包括協定	
県・市・大学名	締結日
広島県	2011年9月6日
熊本県	2011年12月20日
廿日市市(広島県)	2015年6月6日
山口県	2016年9月1日
周南市(山口県)	2016年9月30日
広島大学(広島県)	2017年4月19日
宗像市(福岡県)	2017年10月26日
岩国市(山口県)	2021年10月28日
高梁市(岡山県)	2022年5月20日
高松市(香川県)	2022年5月31日

災害時における物資協定

県・市・町名	締結日
香川県	2005年11月14日
福岡県	2006年3月28日
広島県	2006年10月5日
佐賀県	2006年11月27日
熊本県	2007年1月10日
山口県	2007年1月18日
島根県	2007年3月20日
長崎県	2007年9月21日
菊陽町(熊本県)	2007年2月1日
合志市(熊本県)	2007年6月1日
高松市(香川県)	2007年11月21日
防府市(山口県)	2008年5月22日
瀬戸内市(岡山県)	2008年6月1日
丸亀市(香川県)	2008年11月17日
宗像市(福岡県)	2009年4月1日
大牟田市(福岡県)	2009年9月1日
熊本市(熊本県)	2010年5月24日
大川市(福岡県)	2011年7月21日
藍住町(徳島県)	2011年11月21日
遠賀町(福岡県)	2011年12月1日
行橋市(福岡県)避難施設含む	2012年2月1日
広島市(広島県)	2012年2月22日

災害時における物資協定

市・町・施設名	締結日
井原市(岡山県)	2012年5月8日
八女市(福岡県)	2013年2月1日
佐賀市(佐賀県)	2013年3月21日
うきは市(福岡県)	2013年4月1日
大竹市(広島県)	2013年9月25日
八代市(熊本県)	2013年8月5日
周南市(山口県)避難施設含む	2014年3月14日
公立玉名中央病院(熊本県玉名市)	2014年6月1日
廿日市市(広島県)	2015年6月6日
山口県警察本部(山口県)	2016年10月1日
三豊市(香川県)	2018年3月23日
赤磐市(岡山県)	2018年9月1日
下松市(山口県)	2018年10月5日
出雲市(島根県)	2019年11月22日
柳井市(山口県)	2020年1月1日
武雄市(佐賀県)	2021年6月24日
下関市(山口県)	2022年2月17日
益田市(島根県)	2022年5月25日

避難施設の協定

県・市・町名	締結日
中津市(大分県)	2011年8月25日
藍住町(徳島県)	2011年11月21日
呉市(広島県)	2012年2月20日
別府市(大分県)	2012年4月27日
大竹市(広島県)	2012年11月27日
廿日市市(広島県)	2015年6月6日
広島市(広島県) LECTのみ対象	2017年6月7日
下松市(山口県)	2018年10月5日
福山市(広島県)	2019年6月28日
出雲市(島根県)	2019年11月22日
武雄市(佐賀県)	2021年6月24日
大内連合自治会(山口県)	2022年1月31日

(2022年5月31日時点)

ウィズコロナ 時代に対応

新型コロナウイルスのワクチン接種会場に店舗を提供 集団接種を後押し

福岡、熊本、島根の店舗に接種会場開設

2021年5月から、「ゆめタウン南行橋・あらお・はません・出雲・八女」の各店舗に、新型コロナウイルスのワクチン集団接種会場が開設されました。



「ゆめタウンはません」の接種会場



密集・密接の防止に配慮した空間

指定管理者として 会場運営に貢献

イズミテクノが指定管理を行う「広島県立ふくやま産業交流館」は、広島県の新型コロナウイルスのワクチン大規模接種会場として利用されました。2021年6～7月の2カ月間で、高齢者約54,000人への接種が無事に終了。スタッフは安全な施設運営に全力を尽くしました。



間隔をあけて設営された会場



施設運営で地域貢献に努めるスタッフ

お客さま

地域

夢

テナント

社員

テナント様と共に さらなる発展を



下松市産業振興に
関する協定

3者で
締結

下松市・東急ハンズと協定 「Plugs Market」で産業振興を

2021年9月24日、下松市と東急ハンズ、イズミの3者は「産業振興等に関する協定」を締結。協力して下松市の産業振興や地域活性化を図ることを約束しました。その具体的な取り組みとして、12月1日には「ゆめタウン下松」に東急ハンズの新業態「Plugs Market」がオープン。イズミがFC形式で運営し、下松市および山口県内の地場商品と、東急ハンズがセレクトした生活雑貨を好評販売中です。「地方を元気に」をテーマに、地域の魅力を発見・発信するスポットとして注目されています。



締結式はリモートで実施。左から山西泰明社長、下松市の国井益雄市長、東急ハンズの木村成一社長

「3COINS+plus」をFC形式で運営

2021年2月18日、イズミは株式会社パルと業務提携の契約を締結しました。この提携に基づき、同社が展開する「3COINS+plus」をFC形式で運営。「ゆめタウン夢彩都」と「ゆめタウン下松」に出店した店舗はいずれも好調です。300円商品を中心とした豊富な雑貨が、高い支持を集めています。



「ゆめタウン下松」では行列ができました



「ゆめタウン夢彩都」の「3COINS+plus」

視覚障がい者支援へチャリティ募金

視覚障がい者のみなさまを支援する「チャリティ・ミュージックソン」を、中国放送と九州朝日放送、西日本放送と共同で、毎年開催しています。2021年は12月24・25日に実施。店舗に設置したモニターを通じて、オンラインで協力を呼びかける企画も行われました。



店頭に大型の募金箱を設置

店頭とホームページで 採用活動を支援

イズミでは、地域の方々とテナントのみなさまをマッチングする取り組みを行っています。店頭では「お仕事相談会」を開催。イズミのホームページでは、テナント様の求人情報を掲載しています。



勤務時間帯など条件も掲載

公正な取引の推進へ 投書箱を本社に設置

イズミでは公正な取引を推進するため、本社に投書箱を設置しています。商談やお取引に関すること、従業員のマナーなどへのご意見を、社員教育や店舗運営に生かしています。



イズミ本社2階に設置した投書箱

ウィズコロナ 時代に対応

安全への配慮と販売促進に二人三脚で取り組む

● アクリル板を設置／検温実施

フードコートでは、席数を減らした上でテーブルにアクリル板を設置。小売業の専門店さまで出入口の制限や検温を実施しています。



テーブルの消毒も定期的に実施

● テイクアウトの活用を後押し

テイクアウトを要望するお客さまが多いことから、「ゆめタウン廿日市」では「お弁当&テイクアウト」コーナーを開設。その他の店舗でも、店舗ごとにテイクアウトメニューを作成。チラシやホームページで紹介しました。



「ゆめタウン廿日市」の「お弁当&テイクアウト」コーナー



社員の可能性が 開花する環境を



2021年新入社員

126人

入社式の様子をオンラインで配信 リモート研修で知識と技術を磨く

2021年3月31日、2年ぶりに新入社員の入社式を開催しました。辞令交付の様子などを、保護者のみなさんにテレビ会議システムで配信。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながら、門出の時を一緒に祝いました。新入社員研修では、密集・密接を避けるため、グループワークの開催を見送り、代替案としてスマートフォンを使った新形式の研修を行いました。各部門の研修もリモート主体で実施。オンライン形式で知識と技術を磨きました。



スマートフォンで質問に回答する新形式の研修

お客さま

地域

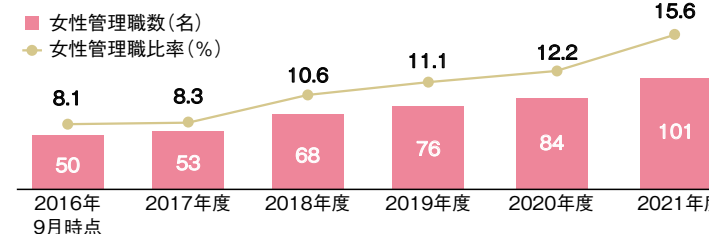
テナント

社員

「ゆめCanプロジェクト」で女性活躍を後押し

イズミは2014年に「ゆめCanプロジェクト」(女性活躍推進プロジェクト)を立ち上げました。「女性管理職比率を20%以上にする」という目標の実現に取り組んでいます。年々、店長や次長になる女性が増加し、「女性管理職ミーティング」を定期的開催するなどして、横のつながりを形成しています。

女性管理職の推移



いきいきと活躍する女性管理職



「青果Zoomミーティング」や「女性管理職ミーティング」などを、テレビ会議システムで開催

企業主導型の 保育施設を整備

子育てと仕事の両立を支援するには、企業主導型保育施設の整備が有効です。現在は、「ゆめタウン光の森」と「ゆめタウン廿日市」の2店舗に設置しています。

2021年4月1日に開園した「ゆめタウン廿日市」の「ゆめジャングルほいくえん」は、「北欧×ジャングル」をイメージした緑あふれる開放的な空間。生後2カ月から小学校入学前のお子さんを預かっています。毎週水曜以外は土・日曜・祝日も開園しているため、利用者に好評です。



広々とした「ゆめジャングルほいくえん」

制度拡充と意識改革で両立を支援

イズミでは1995年から「ポジティブアクション」を推進し、子育てや介護と仕事の両立を応援してきました。女性だけでなく、男性向けの両立支援制度も拡充させ、「出産立会い休暇」や「夫婦で子育て休暇」などを新設。こうした制度は「パパママ応援BOOK」にまとめ、WEBで公開して周知を図っています。また管理職向けに「男性育休取得促進講座」も開催し、上司の意識改革にも努めています。

育児休業制度の充実を図っています

妊娠中	短縮勤務	通常勤務より1、2、3時間のいずれかを短縮できます。
出産前後	産前・産後休暇	6週間の産前休暇、8週間の産後休暇が取得できます。

子どもが1歳未満で
復職

育児時間

1日2回、1回につき30分以内の
育児時間が取得できます。

子どもが3歳未満

育児休業

社会保険料免除、一旦、
復帰しても再休業可。

子どもが
小学校3年生終了まで

育児短縮勤務

通常勤務より1、2、3時間の
いずれかを短縮できます。

看護休暇制度

負傷または疾病の子どもの世話のための
休暇制度。子ども1人につき10日まで。

復職後も定期的に面談を実施し、キャリア支援を行っています。



社員向けポータルサイトで閲覧できる「パパママ応援BOOK」

育休者と意見を交換し 職場復帰を支援

育休者との情報共有を行う「びよびよフォーラム」を定期的に開催しています。オンラインでの意見交換を通して不安を軽減し、円滑な職場復帰を支援しています。

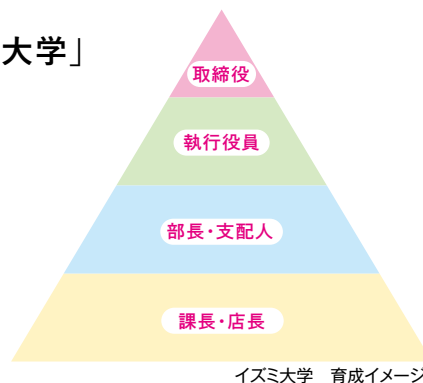




社員の可能性が開花する環境を

経営幹部を育てる「イズミ大学」

将来の経営幹部を社内から育成するため、2021年7月に「イズミ大学」を開校しました。課長・店長、部長・支配人、執行役員の3つのコースで、選抜されたメンバーが2年間のプログラムを履修。リーダーシップや問題解決力、仮説構築力などを磨きます。



支配人塾でリーダーの役割を学ぶ

大型ショッピングセンター「ゆめタウン」のリーダーとして、陣頭指揮を執るのが支配人です。店づくりの鍵を握る支配人のスキルアップと意識改革に向けて、2020年から「支配人塾」を開催。OBによる講演や、SDGsについての取り組み共有などを行っています。



座学と意見交換会を実施

個々の能力を生かすキャリア制度

イズミでは性別に関係なく、高い能力と意欲を持つ人材を役職に登用し、力を発揮できるキャリア制度を導入。出産・子育てによるキャリアの差はなく、女性管理職も増加しています。2017年には女性活躍推進優秀企業認定「えるぼし」の最高位「3段階目」を取得しました。



女性食品次長が現場をリード

「イズミ食品研修センター」が完成

2021年、広島市西区に「イズミ食品研修センター」が完成しました。惣菜、鮮魚、精肉、青果の技能実習室を完備。店舗と同じ環境でカットや盛り付けなどの技能が学べます。加工食品やデイリーの陳列台や、課会ができる研修室も備え、各種研修に活用されています。



鮮魚課の研修。充実した環境で実技練習

食品技能コンテストに60人が参加

従業員の意欲と技術を高めるため、イズミでは各種コンテストを開催しています。2022年2月には、コロナ禍で延期していた食品技能コンテストを写真審査で開催。今回は、惣菜、鮮魚、精肉、青果の4部門に加え、デイリー・加工食品の陳列審査も初めて行いました。計60人が参加し、特に技術力が高かった6人が最優秀技能賞に輝きました。



惣菜の「自社製ツナサラダ巻」
鮮魚の「懷石刺身盛り合わせ6点」

「ゆめ感動物語」で7人が事例発表

「ゆめ感動物語」は、パートナー社員による事例発表会です。自らの気づきを生かし、仲間と一緒に現場を改革した事例を熱く語ります。2021年11月5日の第48回大会には、7人が店舗代表として参加。各自が取り組んだ過程を発表し、全社で共有しました。優れた事例は他店でも導入を進めるなどして、店舗運営に反映されています。



西日本各地の店舗を代表して参加した7名

「新規事業社内コンペティション」を開催

イズミグループの持続的成長と地域活性化に向けて、革新的なアイデアを募集する「新規事業社内コンペティション」を実施。2021年9月14日の最終プレゼンには6組が参加し、健康増進や防災などに関する企画を発表しました。いずれも優れた企画ぞろいで、現在、実用化に向けて検討を進めています。



プレゼンを行った6組

カイゼン報告会で好事例を共有

イズミグループ全体で、業務のムリ・ムダ・ムラをなくす「カイゼン活動」に取り組んでいます。各店舗で工夫して取り組んだ事例の中でも、特に効果が高かった好事例は「カイゼン報告会」で共有。テレビ会議システムを活用し、全店を結んでよりよい店づくりを進めています。



他店の取り組みをオンラインで共有

定年再雇用制度でベテラン社員が活躍

「高齢者雇用安定法」に沿って、イズミでは「定年再雇用制度」を導入しています。満60歳に達した正社員・パートナー社員は、本人が希望する場合、65歳まで再雇用されます。ベテラン社員が意欲的に勤務できるよう、パートナー社員の時給据え置き制度や、評価に応じた昇給制度などを設けています。

- 1 本人が希望すれば、誰でも安心して65歳まで勤務することができます。
- 2 定年前までのみなさんの頑張りを生かすため、パートナー社員の時給は据え置きます。
- 3 定年後も評価に応じた昇給を行うので、意欲が高く保たれます！（正社員・パートナー社員共通）

ウィズコロナ時代に対応

安心して働ける環境の整備へ 各種対策を実施

● 本社と店舗でワクチン職域接種

2021年6月から、イズミ本社と店舗で新型コロナウイルスのワクチン職域接種を実施しています。テナント従業員の皆さまも対象。2022年には3回目の接種も開始しました。



イズミ本社の接種会場



「ゆめタウン博多」の接種会場

● 接客部門にマスク配布

レジや接客部門の従業員に向けて、「プレミアムナッシングマスク」を配布。2022年1～3月上旬の支給枚数は、約5万枚に上りました。



「ゆめマート沼田」のスタッフ

● 動画マニュアルを活用

対面での集合研修による三密を回避するため、動画マニュアル「STeP」の活用を推進。新商品の特長や売場への展開方法などが動画で学べます。



空き時間に営業室で視聴

【最優秀賞】ニコニコ長寿プロジェクト

イズミ本社 ライフスタイル本部 牧田 知子

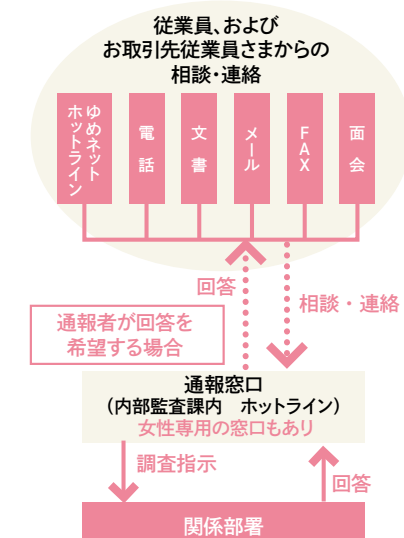
高齢者の健康維持と仲間づくりを目的に、店内に健康器具やドリンク、雑誌、本を備えたコミュニティの場を設けたい。



発表を行う牧田

相談窓口を社内に設置

社内に「イズミホットライン」を設置し、従業員やお取引先従業員さまから相談を受け付けています。パワーハラスメント行為の相談にも対応しています。



私たちは行政やお客さま、お取引先様との連携を深め
多方面から環境保全活動に取り組んでいます。
これからも、小売業としてふさわしい社会的責任を果たし
持続可能な社会を構築するため、アクションしていきます。



地球温暖化の防止へ 全方面でCO₂排出量削減

● AIが省エネ行動をアドバイス

店舗での省エネ行動をAIが教えてくれる「エナッジ®」。2021年から23店舗に導入されています。従業員は出勤時に、タブレットに表示された3つの省エネ行動をチェック。「作業室のエアコンは、作業が終わったらすぐに止める」などを実践し、電力消費量の削減につなげています。「エナッジ®」は今後も導入店舗を増やす予定です。



タブレットに
省エネ行動を表示



出勤時のチェックを習慣化しています



イズミ本社のパネル

「ゆめタウン廿日市」の
エコステーション



● 店舗と本社で 環境意識を高める



イズミ本社では、従業員向けに消費電力量などをリアルタイムでパネルに表示しています。「ゆめタウン廿日市」のエコステーションでは、太陽光発電の発電状況やリサイクル情報を紹介。情報を「見える化(可視化)」することで、一人でも多くの人の環境意識を高めることが目的です。

● 物流の工夫で省エネ推進

「イズミ広島物流センター」(広島市西区)が中心となり、常時、物流の効率化を進めています。1台のトラックに、ドライ商品とチルド商品を混載して店舗に届けることで、大幅な輸送車台数削減を実現。また、段ボールの代わりにプラスチック製の折りたたみコンテナを使用し、省資源に努めています。



2015年に完成した
「イズミ広島物流センター」

● 買物を通じた啓発活動「BE+CAUS」



2021年7月1日～31日、イズミはソーシャルアクションプラットフォーム「BE+CAUS」のキャンペーンに参加しました。対象商品購入金額の一部を、海辺のプラスチックゴミ回収などを行う団体に寄付。いつもの買物を通じて、プラスチックの利用について改めて考える機会になりました。



店内ポスターで
多くのお客さまに告知

● 電力会社、お客さまとの連携でCO₂排出量削減



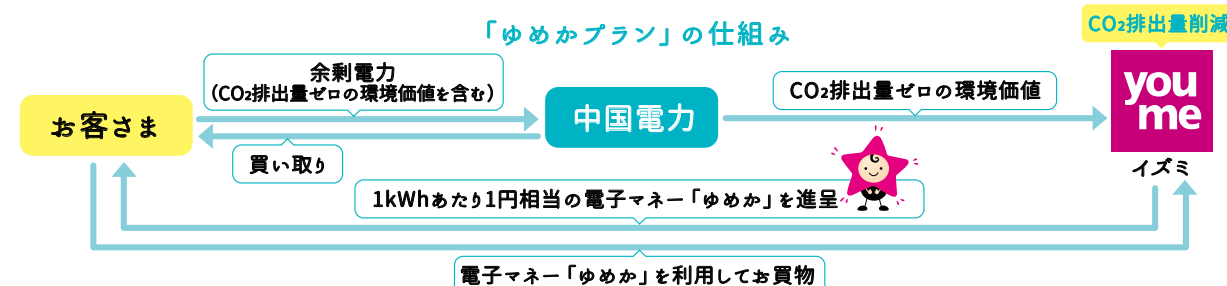
2019年11月より、イズミは中国電力と連携して「ゆめかプラン」を実施しています。ご家庭での太陽光発電による余剰電力を中国電力が買い取り(2021年度実績は税込7.15円/kWh)、イズミからも1kWhあたり1円相当の電子マネー「ゆめか」を進呈する、お得なプランです。中国電力は、買い取った余剰電力に含まれるCO₂排出量ゼロの環境価値※をイズミに提供。イズミは店舗運営にかかるCO₂排出量削減に、この制度を活用しています。

※「環境価値」とは、再生可能エネルギーがCO₂排出量を削減する価値のこと



家庭用の太陽光発電パネル(イメージ)

「ゆめかプラン」の仕組み



● 冷蔵・冷凍ケースでの節電



食品の品質や鮮度を守るため、冷蔵・冷凍ショーケースは売場に欠かせない設備です。イズミでは全店で「インバーターシステム」を導入。一元管理を行い、自動で24時間最適な庫内温度を保ちながら、消費エネルギーを削減しています。



縦型の冷凍ショーケース

● 電気自動車の普及を推進



環境配慮の観点から利用が増えている電気自動車。より一層の普及には充電スポットの拡充が重要なため、イズミでは「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン広島」「LECT」などに設置。今後も増設を計画しています。



「ゆめタウン廿日市」の充電スポット

17店舗
に設置

● 塔屋の照明消灯などを開始



2022年4月1日、イズミグループ全店で「ライトオフプロジェクト」を開始しました。店舗塔屋(屋上看板)の照明は20時以降消灯、空調の設定温度を1℃上げるなどの取り組みを実施。従業員による省エネ活動も同時に強化し、消費エネルギー削減を進めています。



店頭の告知ポスター

● バイオマス レジ袋を導入



2021年11月より、全店の食品・衣料品部門で環境に優しいレジ袋への切り替えが始まりました。新タイプのレジ袋は、植物由来のポリエチレン「バイオマスプラスチック」を25%配合。石油資源の節約に加え、CO₂排出量の削減にもつなげています。



CO₂排出量
年間削減見込み
269t

植物由来の素材を
配合した新レジ袋

● 電気式空調設備で CO₂排出量を半減



従来型の重油式空調設備に比べ、電気式空調設備はCO₂排出量を約半分に抑えられます。店舗リニューアルなどの際に、順次、空調設備の更新を実施。電気式空調設備の導入で温室効果ガスの排出量を削減していきます。



旧式の重油式空調設備



環境配慮型の電気式空調設備



リサイクルの推進へ

資源循環の輪を地域に拡大

店頭で牛乳パックや食品トレーを回収



家庭から出るごみのうち、6割以上を占めているのが容器や包装です※。その再資源化を推進するため、イズミは全店の店頭で回収ボックスを設置。多くのお客さまがお買物のついでに牛乳パックや食品トレー、ペットボトルなどをご持参くださっています。

※環境省 容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要 容積比率(令和3年度)



店頭で設置された回収ボックス

古紙回収ステーションが好評



「エコ・ステ」は、お客さまに大好評の古紙回収ステーションです。ご持参いただいた古紙の重量に応じてポイントを付与し、そのポイントはお買物にご利用いただけます。現在73店舗(2022年5月現在)に設置され、今後も導入店舗を増やす予定です。

※「エコ・ステ」とは、「エコ・ステーション」の略です



駐車場に設置された「エコ・ステ」

73店舗
に設置

衣料品回収キャンペーン開催

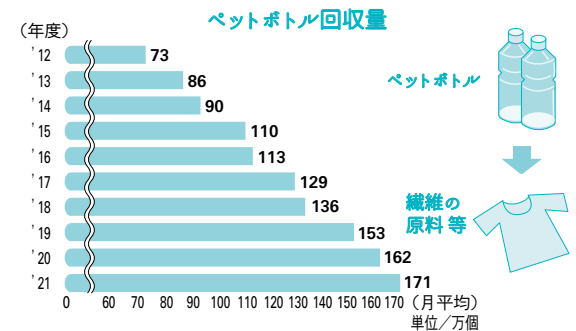
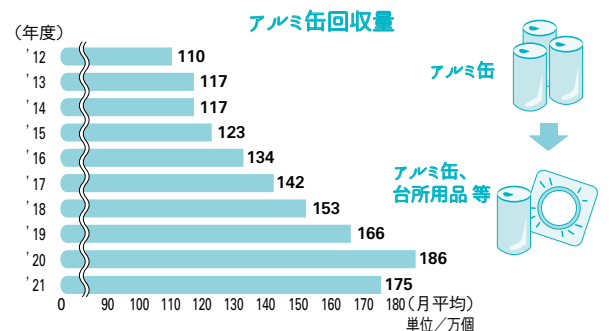
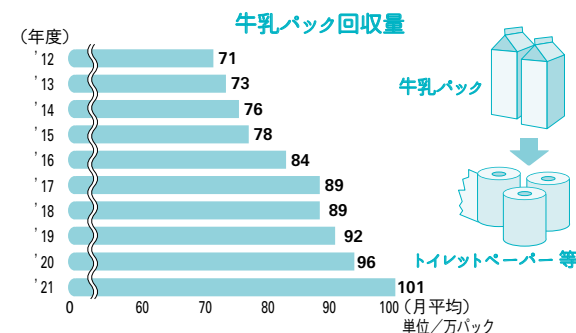
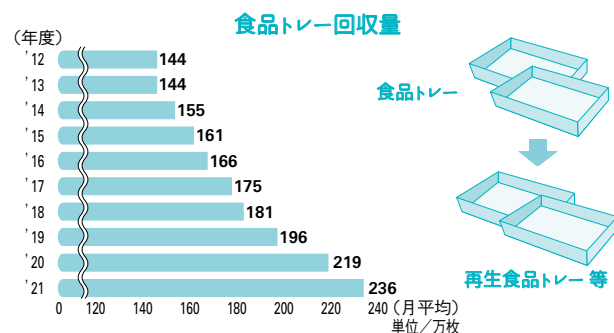


衣料品回収キャンペーンを、毎年数回「ゆめタウン」で開催しています。ゆめカード会員さまを対象に、不要になった衣料品を最大5点までお引き取りし、500円引分のクーポン券を3枚進呈。回収品は資源として有効活用し、リユースやリサイクルを行っています。



特設コーナーで回収を実施

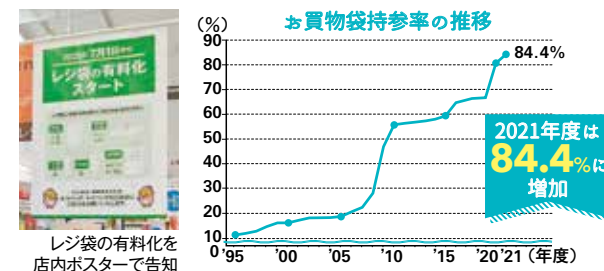
店頭での容器回収量



お買物袋持参運動が浸透



1997年から、イズミは地域のみなさまと協力してお買物袋持参運動を推進してきました。25年近く続けている取り組みが実を結び、2021年度の持参率は84.4%に上昇。また現在は、全店でレジ袋の無料配布を取りやめ、有料でバイオマス原料を25%配合したレジ袋をお渡ししています。



広島市ごみ減量優良事業者表彰



2021年12月24日、令和3年度広島市ごみ減量優良事業者として表彰されました。評価されたのは、食品廃棄物の再資源化や、食品ロスの削減、フードライブの実施などの活動です。この表彰を励みに、今後も一層取り組みを強化していきます。



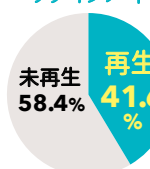
前列中央が広島市の松井一實市長、左から2番目がイズミ 業務プロセス改革本部長の山西大輔(現:管理本部長)

食品リサイクルを強化



店舗から出る食品廃棄物は、徹底して分別管理し、資源として有効活用しています。東広島市の3店舗は地元の双葉三共株式会社様と連携して、調理くずや食べ残しなどを有機肥料へと再生。九州の店舗では、廃油をバイオディーゼル燃料に再生しています。

2021年度の
リサイクル率



野菜くずとその他の食品廃棄物、燃やせるゴミを分類

制服を再生してエコバッグを作成



2021年秋、制服を再生してリサイクルエコバッグを作成しました。原料になったのは、古い白衣やパンツなど。専門業者で再資源化し、完成した5色のエコバッグは、抽選で6,000名のお客さまにプレゼント。レジ袋の使用量削減につながりました。

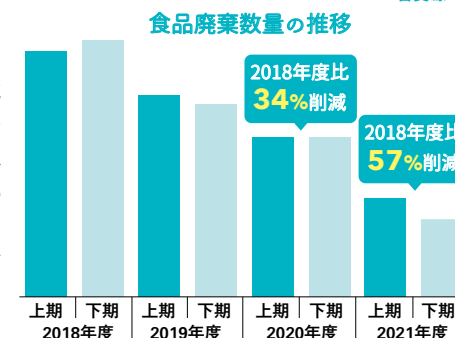


使い込まれた制服をカラフルなエコバッグに再生

食品ロス削減



2019年4月から、精肉、鮮魚、青果、デパートの各部門で食品廃棄量を毎日「見える化(可視化)」しています。廃棄量を把握することで、食品ロス削減への意識が向上。消費期限が迫った商品は「売切り平台」に集め、売り切っています。取り組みの結果、2021年度は2018年度比で食品ロスを57%削減できました。



本社・店舗周辺で清掃活動を実施



環境美化を推進するため、イズミ本社や各地の店舗の周辺で、清掃活動を実施しています。SDGsの目標「11住み続けられるまちづくりを」に貢献しようと、丁寧にゴミ拾い。日頃お世話になっている地域のみなさまへの、感謝の気持ちも込めています。



歩道や緑地のゴミを拾いました

経営の根幹をなす指針を明示

全ての事業活動を通じて社会に貢献します。

イズミ経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける。

1 サステナビリティ基本方針

- 1 未来を見据えた長期ビジョンを策定し、事業を通じて社会課題の解決に取り組みます。
- 2 すべてのステークホルダーと良好な信頼関係を築き、対話を通じて、共に社会に対して責任を果たします。
- 3 地域とともに発展するため、地域に根ざした活動に取り組み、より良い生活環境を維持・向上させる活動を通して、長期的な価値を提供します。

【マテリアリティ(重点課題)】

マテリアリティ		取り組み内容
地域 お客さま	地域、お客さまとともに豊かな暮らしをつくる	■お客さまにとって便利なお買物方法の提供(生鮮デリバリー拡大) ■高齢者や単身者などさまざまなお客さまに配慮した商品、サービスの提供 ■包括協定や災害時の物資供給に関する協定を締結 ■地域のお客さまが集う場所の提供
環境	脱炭素社会の実現と資源の有効活用をする	■CO ₂ 排出量削減 ■プラスチック製容器包装削減、資源の有効活用 ■食品廃棄物、店舗から排出される廃棄物の削減 ■食品リサイクルの実施
安全・安心	安全・安心の提供と商品・サービスを通じた価値をつくる	■衛生管理の徹底 ■健康に配慮した商品、アレルギー対応商品の取り扱い拡大 ■水産物、農産物の持続可能な調達
ダイバーシティ	多様な人材が活躍できる環境を整備する	■女性の管理職比率、障がい者雇用率のアップ ■ジェンダー平等、若者、高齢者等の活躍支援 ■ライフステージにあった労働環境の整備

【長期ビジョン】

めざす姿	具体的な取り組み	2030年の目標	2050年のめざす姿
脱炭素社会	CO ₂ 排出量削減	店舗運営に伴うCO ₂ 排出量50%削減(2013年度比)	店舗運営に伴う排出量実質ゼロ
		自社の排出量(スコープ1※1、スコープ2※2)のみならず、スコープ3※3を含めたサプライチェーン全体で削減をする	
資源循環社会	プラスチック対策	プラスチック製レジ袋の使用量を80%削減(2018年度比) 使用するレジ袋の素材は、バイオマス等へ変更	プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ
	食品ロス・食品リサイクル対策	食品ロスを50%削減(2018年度比)	食品ロスを80%削減(2018年度比)
		食品廃棄物のリサイクル率70%(2018年度比)	食品廃棄物のリサイクル率100%
自然共生社会	生物多様性の保全	サステナブルな商品の取り扱いを拡大し、エシカル消費を推進する	

※1:直接排出量 ※2:間接排出量 ※3:その他の間接排出量

2 調達方針

「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」企業であるために、役員・社員やお取引先様を含む全てのビジネスパートナーと共に商品の製造過程における社会的責任を果たすため、「調達方針」を定めます。
加えて、本方針が定める遵守すべき事項について、イズミグループの商品に関わるお取引先様と協力して取り組んでまいります。

- 1 安全・安心な商品の供給
- 2 法令等の遵守
- 3 人権の尊重
- 4 労働環境の整備
- 5 公正な取引
- 6 情報の保護
- 7 環境の保護
- 8 地域コミュニティへの貢献
- 9 実践のための仕組みの構築・運用

3 人権方針

- 1 基本的な考え方
イズミグループは、人種・民族・国籍・宗教・思想・信条・性別・年齢・身体的特徴・性自認・性的指向などによる差別を行わず、あらゆる人々の人格と個性を尊び、人権を尊重します。
- 2 適用範囲
「イズミグループ人権方針」は、イズミグループの全役員および全社員に適用されます。またお取引先様を含むビジネスパートナーや関係者において、人権に対する負の影響が明らかになった場合、そのビジネスパートナーや関係者に対し、人権を侵害しないよう求めます。

- 3 人権デューデリジェンスの実施
- 4 救済措置
- 5 ステークホルダーとの対話
- 6 教育・啓蒙活動
- 7 情報開示
- 8 重点課題
■個人の権利の尊重 ■労働者の権利の尊重

4 ダイバーシティ&インクルージョン方針

イズミグループは、経営理念において「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」企業でありたいと考えています。人種、国籍、年齢、性別、性的指向・性自認、宗教、信条、文化、障がい、キャリア、ライフスタイルなどにかかわらず、多様なバックグラウンドを持つ社員が互いに尊重し合い、情報・機会においてすべての人に公平な扱いが保証され、能力や個性を発揮し、働くことを通じてやりがいや成長を感じられる組織であることが、競争力の源泉であると位置づけています。

5 気候変動対応方針

近年、地球温暖化が進み、多発する豪雨、台風の大型化などの異常気象を最小限にとどめるため、イズミは気候変動問題に対して取り組みを行います。地球温暖化はイズミが事業を行う地域でも大いに影響があり、もはや他人事ではなく、かけがえのない唯一無二の地球において持続的に生活を続けることができるよう、私たちは、事業を通じて環境問題解決に取り組み、よりよい未来を次世代につなげます。

- 1 脱炭素社会への貢献
省エネ化・再生可能エネルギーへの切り替えを実施し、CO₂排出量削減を図ります。
- 2 循環型社会への対応
お客さま、お取引先様とともに、プラスチック、食品などに代表される廃棄物の排出の抑制に努め、廃棄物となったものに対してはリサイクルに取り組み、限られた資源を有効に活用します。
また廃棄物については、不適正処理を行いません。
- 3 環境に対する意識の向上
脱炭素社会の実現に向け、従業員一人ひとりの意識改革に努めます。

6 TCFD提言への対応

当社では、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言の対応に従い、「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」の情報開示フレームワークに基づき情報開示に努めます。

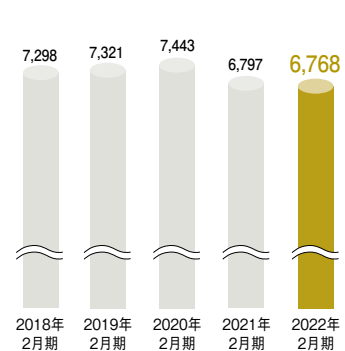


IRコミュニケーションを推進

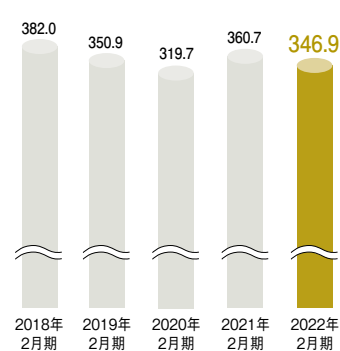
適時・適切な情報開示と対話を充実させます。

イズミグループ業績概要

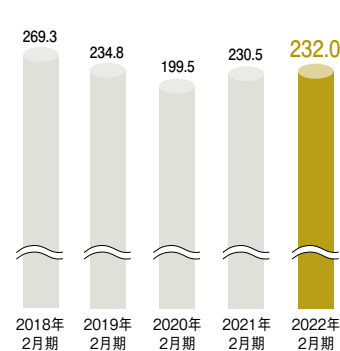
連結営業収益 (単位:億円)



連結経常利益 (単位:億円)



親会社株主に帰属する
当期純利益 (単位:億円)



◆株主優待制度による利益還元

イズミでは、利益成長に応じた配当金に加え、株主優待券やギフト券の贈呈を行っています。また長期保有特典制度も新たに導入しました。

ご所有株式数	一回当たりの贈呈額	
	株主ご優待券の場合	ギフト券の場合
100株以上	20枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	30枚 (3,000円相当)	
300株以上	40枚 (4,000円相当)	
400株以上	50枚 (5,000円相当)	
500株以上	60枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	100枚 (10,000円相当)	2,000円相当
2,000株以上	200枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	300枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	400枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	500枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	600枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	800枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	1,000枚 (100,000円相当)	

■長期保有特典制度

ご所有株式数	自社商品券の場合	ギフト券の場合
300株以上	2,000円相当	500円相当
1,000株以上	4,000円相当	1,000円相当

■泉美術館ご招待券の贈呈

上記とは別に、泉美術館ご招待券を贈呈しています。

※「株主ご優待券」は、1,000円以上お買い上げにつき、1,000円ごとに各1枚(100円割引券)をご使用いただけます。「株主ご優待券」「自社商品券」の対象店舗はゆめタウン・ゆめマート・ゆめシティ・LECTの各店舗、(株)ユアーズ・(株)デイリーマート・(有)はなわの店舗等。
※「ギフト券」は全国でご利用いただけるものを贈呈いたします。
※長期保有特典制度では、現行制度で株主優待券をお選びの方には自社商品券、ギフト券をお選びの方にはギフト券を年1回贈呈します。

◆IRコミュニケーションを推進

イズミでは経営企画部が中心となり、定期的に経営戦略や業績に関して株主・投資家みなさまとの対話を実施しています。年2回アナリスト・機関投資家向けの決算説明会を実施している他、個人投資家向け会社説明会を開催するとともに証券会社が企画する個人投資家セミナーへ参加しています。ただし、2020年度以降については、新型コロナウイルス感染症拡大のため、いずれも実施しておりません。

■ホームページへの掲載情報

月次売上、決算資料、業績推移、株式情報、株主総会、IRカレンダー、決算公告、IR information (English)、ニュースリリース、株価情報

■IR情報に関するURL

<https://www.izumi.co.jp/corp/ir/>



半期ごとに株主通信を発行



日本語と英語で
アニュアルレポートを毎年発行

コーポレートガバナンスの充実

経営の健全性、透明性、効率性を高めます。

1) 基本的な考え方

お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図ること
で、株主やお取引先様、社員などのステークホルダーのみなさま
のご期待にお応えしたいと考えております。同時に、高い倫理観
をもって社会的責任を果たしつつ、地域社会へ貢献します。

このような理念のもと、経営組織や諸制度を整備し透明性・公
正性を高めることを重要な課題の一つと位置づけております。
そして、取締役会の監督機能の強化、財務の信頼性の確保、業務
の有効性と効率性の向上に取り組んでいます。

2) 業務執行、監査等の状況

当社は監査役会設置会社であり、取締役8名(うち社外取締
役3名)ならびに監査役3名(うち社外監査役2名)で構成し、取
締役会は原則として月1回開催し、充実した審議と取締役の職
務執行に関する監督が行われています。取締役会においては、
監査役に対して取締役会議案に対する客観的な意見を求める
と共に、監査役が取締役の意思決定および業務執行状況の
監査をしています。

また、取締役8名の中から代表取締役1名を選定し、代表取締
役の下に執行役員13名を選任して業務執行にあたらせておりま
す。取締役(社外取締役を除く)で構成する経営会議および取締
役(社外取締役を除く)と執行役員で構成する本部長会議を原則
毎週開催し、業務執行について機動的な意思決定を行っていま
す。当社グループ会社の経営状況につきましては、当社社長とグ
ループ会社社長との間において3カ月に1回の報告を義務づけ、

また、当社グループ経営本部長とグループ会社社長との間で毎月
1回の経営課題に係る対応策を協議することを義務づけています。

さらに、適正かつ効率的に経営監視機能を行うために、4名の
顧問弁護士による経営に関する助言・指導をいただいています。

3) 内部統制システム・リスク管理体制の整備状況

内部統制システム・リスク管理体制の整備状況につきましては、
次のとおりです。

■各事業本部とは独立した経営管理部が主管となってコンプラ
イアンス・リスク管理委員会を毎月1回開催し、当社各部門なら
びにグループ会社から選出されたコンプライアンス・リスク管理
委員出席の下、当社グループ全体のコンプライアンス教育およ
びリスク管理のモニタリング活動報告について審議しています。
当委員会の議事内容については、取締役および監査役に報告し
ています。

■イズミグループ行動憲章を定め、当社およびグループ会社の
取締役・従業員の行動規範として、事業活動における法令遵守
に努めています。また、法令遵守の徹底・意識向上のため「イズミ
ホットライン」(内部通報制度)を設置し、当社およびグループ会
社からのさまざまなリスク発生の未然防止に努めています。

■事業活動において生じたさまざまなリスクへの対応について
は、お客さまの安全確保、被害の最小化を主たる目的として、全
社連絡体制を整備して対処しており、地震等の災害時において
は直ちに緊急対策本部(本部長は代表取締役社長)が設置され
る仕組みとなっています。

